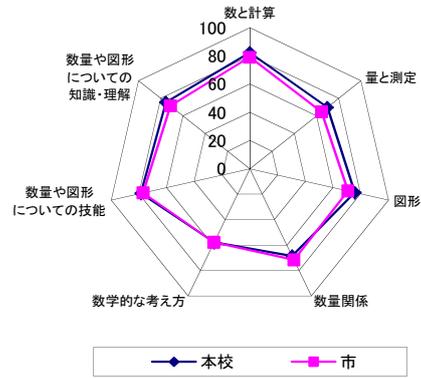


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.4	79.0	78.9
	量と測定	69.7	64.6	66.2
	図形	75.7	70.9	77.8
	数量関係	68.5	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	57.8	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	78.5	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	75.5	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は82.4%で、領域の中でも最も高く、市の平均を3.4ポイント上回っており、よく身に付いているといえる。 ○小数や分数の乗法や除法、分数、小数、整数の乗除混合計算の正答率はいずれも80%を超えて、よく身に付いているといえる。 ●図を使って分数の除法の文章問題に合った式を選択する問題の正答率は51.0%と市の平均よりも1ポイント下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題の反復練習や決まった時間内で正確に解答を出す訓練などで計算力が身に付いてきた。 ○小数や分数の乗法・除法の問題、2つが混じった計算では、日頃の学習の成果が表れている。さらに計算の技能を高められるように、練習問題を用いて繰り返し学習し、定着を図っていく。 ●文章題に重点的に取り組ませ、正解を求める過程を図や表で表すようにし、内容に合った正しい式が立てられるようにする。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は69.7%で、市の平均を5ポイント上回っている。 ○速さをもとに時間を求める式の選択問題では、正答率が84.3%と市の平均を10ポイント以上も上回っていた。分速を時速に直す問題では、正答率が市の平均を4ポイント上回っていたが、正答率が54.9%と低かった。 ○面積と体積の問題では、すべての問題において正答率は市の平均を上回っているが、特に円の面積を答える問題では正答率が86.3%と市の平均を8ポイント上回っていた。 ●単位量あたりの大きさ・速さの記述式の問題では、正答率が市の平均を3ポイント上回っていたが、31.45%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 面積や体積では実物で量感を感じたり操作したりしながら公式を求める学習を進めていたので、よく理解しているといえる。今後も操作的な学習を進めて公式を導き出させ、理解を確実にしていきたい。 ○単位量あたりの大きさや速さを求める問題では、文章問題において何が分かっているかが分からないのかを線を引くなどして考えさせ、実際の生活の場面と結びつけるなど、学習したことが生活に活用できるようにしていく。 ●算数においても言葉を使って回答を表現させる問題を取り入れていくなど、回答を導いたり求めたりする記述式の問題に慣れさせていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は75.9%で市の平均を4.5ポイント上回り、ほぼ身に付いているといえる。 ○点対称の図形を作図する問題では、正答率が88.2%と市の平均を6ポイント上回っており、平行四辺形について対称の図形について問う問題では、正答率が84.3%と市の平均を13ポイント上回っていた。また、合同な図形を作図する問題でも正答率が94.1%と高かった。 ●五角形の内角を求める問題や円の直径から演習を求める問題では、市の平均を上回っているものの正答率が60.8%と51.0%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象な図形では、具体物を測定したり操作したりする活動を取り入れながら図形についての理解を進めてきたが、今後も様々な図形や生活場面で、図形を見る感覚を養っていく。 ○円周を求める問題では、半径と直径、円の面積と円周の概念が身に付いていないため混乱している児童も見られるので、図や操作活動を通して、しっかりと公式の意味を理解させて定着を図っていく。 ●多角形の内角に関する問題は公式だけでなく、どのような考えから公式が作れるかを図の操作などから考えることで、多角形についての思考を深めさせる。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率68.5%と市の平均を3ポイント下回った。 ○割合と比では、円グラフから割合を読み取る問題では、正答率が市の平均よりも3ポイント高く、比較量を求める問題では、正答率が市の平均よりも8ポイント上回った。 ●文字と式や比例・反比例では正答率が市の平均よりも2～5ポイント下回った。また、割合と比の記述式の問題では、市の平均を10ポイント下回って正答率が36.3%と考え方や表現力が十分に身に付いていないといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○比例と反比例については、表から数値を読み取るだけでなく、問題場面をイメージさせたり図に表させたりして、関係を見つけれられるようにさせる。 ●割合については公式を理解させるとともに、問題文で何を求めているか考えさせていくことが必要である。また、割合の考え方は、日常生活のいろいろな場面で使用するので、実際の場面を通して理解を深めさせ、定着化図っていききたい。